

## 事業効果報告書

### I) 事業の目的

国民が健康で豊かな人間性を育むうえで健全な食生活が重要であるにもかかわらず、近年、栄養の偏りや食生活の乱れが目立つようになり、肥満や生活習慣病の増加等が問題となっている。こうした状況の中で平成 17 年 6 月に食育基本法が成立し、また平成 18 年 3 月には食育推進会議により「食育推進基本計画」が作成された。さらに、農林水産省と厚生労働省は平成 17 年 6 月に「食事バランスガイド」を決定し、普及を図ってきている。

このような中において、本連合会が認定するお米マイスターが地域の小学校等に出向く等して、朝ごはんや日本型食生活の大切さ及び米穀の生産、流通、消費についての体験を通じた授業を行い、参加児童のお米・ごはんへの興味を高めて、ごはんの摂取意欲を増やすこととし、同時に保護者にも情報を伝えることで、以後の意識や行動の変化を促すことを目的として実施した。

### II) 授業の実施

次の通り実施した。

実施内容	小学校からの依頼に基づき、当該地域のお米マイスターを講師として派遣し、次の項目について児童に授業を実施した。 ①朝ごはんを食べることの効果 ②日本型食生活及び食事バランスガイドの活用法 ③お米の生産・流通・販売に関すること ④お米の品種・精米・炊飯に関すること ⑤体験授業（粳摺り、精米、炊飯など） ⑥食料自給率や環境・農業問題に関すること ⑦お米の炊き方や保存方法等（家庭科として） ⑧ジュニアお米マイスター認定試験
実施時期	平成 20 年 7 月～平成 21 年 2 月の間
実施校	486 校
授業回数	1,063 回

### III) 事業効果

事業の効果測定は、授業を開催した担任教師に調査を依頼して次の項目について 2 回実施した。

- |               |              |
|---------------|--------------|
| ①朝食を食べる回数     | (当日及び 2 週間後) |
| ②朝食にごはんを食べる回数 | (当日及び 2 週間後) |

- |                         |            |
|-------------------------|------------|
| ③1日にごはんを食べる分量(杯数)       | (当日及び2週間後) |
| ④今後のごはんを食べる意向           | (当日のみ)     |
| ⑤授業を受けて参考になった事柄         | (当日のみ)     |
| ⑥食事バランスガイドの認知度及び理解度、実践度 | (当日及び2週間後) |
| ⑦授業内容の家族への伝達及びその反応      | (2週間後のみ)   |

その結果、「①朝食を食べる回数」については、「食べない」児童が0.2%減少し、欠食率にわずかな改善がみられたものの全体的には高い効果は見受けられなかった。しかし、「②朝食にごはんを食べる回数」では、「毎日食べる」児童が1.6%「6回食べる」1.2%、「5回」0.3%、「4回」0.4%増加するとともに「食べない」児童が3.2%減少し、全体的に朝食にごはんを食べる回数が増加する効果があったと思われる。

また、授業で勉強になったことでは、「朝食にごはんを食べると良いこと」30.3%、「食事バランスガイドのこと」21.2%、「お米ができるまで」19.4%、「国内で食べ物を作ることの大切さ」18.1%となり、授業方針の狙い通りの結果が得られた。同時にこの内容を「家族に話した」児童は71.3%にのぼり、家族が関心を持った内容では、「朝食にごはんを食べると良いこと」28.1%、「食事バランスガイドのこと」17.9%、「お米ができるまで」10.9%、「国内で食べ物を作ることの大切さ」13.5%となり、児童の感想に比例する結果が得られ、児童が興味を持ったことをそのまま家庭で伝えていることが伺える。

次に「食事バランスガイド」の認知度については、「知っていた」17.2%、「見たり聞いたりしたことがあった」56.4%となり、7割の児童がすでに認知しており、授業後に「食事バランスガイド」を参考にして食べるようにしたかの質問には「お米をしっかり食べる」20.2%、「主食をちょうど良い量食べる」17.4%と多くの児童が食事バランスガイドの中でも「ごはん食」の大切さを理解している。

最後に「今後、ごはん食を増やすか」の質問には、52.3%の児童が「増やしたい」と回答したものの2週間後の「1日に食べるごはんの杯数」は増加しておらず、課題を残した。運営委員会においても「児童の希望」と「保護者(料理を作る人)の実践」の間に溝があり、本事業の効果を高めるためには、「児童を通じた保護者の教育」や「家庭で児童に料理をさせる(米を炊かせる)」ための工夫を盛り込んでいくことが今後のテーマであると提言された。なお、波及効果としては全国的に多くの地元新聞等に授業が掲載され、大きな普及啓発効果があったと思われる。

(アンケート集計結果)

別添の以下資料をご確認ください。

- ・平成20年度 ごはんパワー事業効果アンケート集計結果